

**Operators & Service
Manual**

DN3600C

Version 3.0C

TELEX PRO AUDIO GROUP

KLARK TEKNIK

日本語取り扱い説明書

目次	
相似の宣言	3
導入	7
設置	8
機器に慣れる	9
はじめに	10
Qの切り替え	12
メモリー操作	13
オートEQ	14
オートゲイン	17
マスター／スレーブの操作	18
参照セクション：	20
オペレーションの詳細	20
初期設定／起動	20
フェーダの調整	20
ゲイン調整	20
曲線/フェーダ	20
MORE EQ	21
A : B : LINK	21
ユーティリティー	21
バイパスとリセット	21
MORE EQメニューとディスプレイ	22
フィルター	22
A : B : LINK	22
イン/アウト	22
～抜け出す	22
フィルター調整	23
ノッチ1/2	23
<+>	23
戻る (BACK)	24
ユーティリティーメニュー	24
オート/Q	24
メモリー	24
MORE...	24
～抜け出す	24

オート/Q メニュー	25
オートゲイン	25
オートEQ	25
Q タイプ	25
～抜け出す	25
メモリー/ロックアウトメニュー	26
呼び出し	26
保存	26
ロック	27
フル	27
部分的	27
～抜け出す	27
MORE... メニュー	28
スレーブ	28
スタンドアローン (単独)	28
すべて (ALL)	28
スレーブ 1から64	28
MIDIチャンネル	29
LCDの調整	29
LCDの反転	29
周波数エンコーダ	29
レベルエンコーダ	29
～抜け出す	29
仕様データ	
メニューチャート	

適合の宣言

関連指示書（EEC欧州経済共同体の略）

92/31/EEC&93/68/EECにより改正された89/336/EEC電磁波適合性指示書93/68/EECにより改正された73/23/EEC低電圧指示書.

適合する機器として

機器種類	製品
Graphic Equaliser	DN300 DN360, DN301, DN332
Preset Equaliser	DN320 DN330
Parametric Equaliser	DN405 DN410
Dynamics Processor	DN500 DN504, DN510, DN514
Audio Analyser	DN6000
Crossover	DN800
Delay Line	DN7204, DN7103
Programmable Equaliser	DN3600 ,DN3601
Remote Control System	DN3698, DN3603
Crossover	DN8000
Programmable Equaliser	DN4000

適合性宣言の根拠

上記に列記した製品およびその派生製品は、上記EU指示書の下記基準に適合する

EN 50081-1 (EN55022 class B)

EN 50082-1 (IEC801 Part 2, 4 / ENV 50140 / ENV 50141)

EN 60065.

署名: N. G. Tembe

職位: EVI Audio (U.K.) Plcの技師長

日付: 1 9 9 7年1月1日

注意!

購買者担当者、設置担当者、またはユーザーは、これらの機器を使用することには、上記指示書の指示にしたがわなくてはなりません。

これらの特別な規定の詳細および使用への制限は、請求があればお送りしますが、製品取扱説明書にも記載されています。

注意

ケーブル:

この製品には、必ず金属の3ピンXLRコネクタが付いた高品質なシールドをされたオーディオケーブルを使用してください。ケーブルのシールドは、PIN1に接続してください。

他の種類のオーディオケーブルや構成の異なるケーブルでは、電磁干渉により性能が低下します。

電界:

もし可聴周波数シグナル (20Hz から 20KHz まで) の電磁界においてこの製品が使われるならば、ノイズ比率は低下するでしょう。

このKLARK TEKNIK製品を使用いただきありがとうございます。

最大の性能をこの精度エレクトロニクス製品から得るために、どうぞ、これらの手順を注意深く勉強してください。

取り付けおよびDN3600を操作することは複雑ではないのですが、適応性は、操作と接続を熟知して操作することで得るものです。

このユニットは、あなたたちの使用する場所で強い要望に沿うために用意されました。

Precautions (用心)

ユニットを電源に接続させる前に、あなたの一般的に供給されている電圧が正しいか、確認してください。動作電圧は後ろパネルに表示されています。

このユニットを、過度な熱、ほこり、またはメカニカルな振動がありうる場所に設置はしないでください。

電源接続

接続はIEC標準パワーソケットによって行います。

このユニットは、100V~240V 50Hz~60Hzの間のどのようなAC電圧でも動作します。

このユニットを電源と接続する前に、ヒューズが正しく入っているかを確認してください。後ろのパネルのヒューズホルダー隣に表示されている正しいタイプを確認してください。

安全警告

このユニットは3ピンパワーソケットを取り付けられます。

安全のために、アースリードは、切り離さないでください。

もしアースループについての問題に起きたなら、ユニットの中でシャシアースから信号のアースを切り離して、グラウンドリフトリンクを取り去ってください（詳細のためのサービスセクションを見てください）。

これは資格を持ったサービス専門技師だけにより行うべきです。

ショックまたは火危険を防止するためには、ユニットを雨または湿度にさらさないでください。

電気のショックを避けるためには、カバーを取り去らないでください。

危険な電圧が中に存在していますので、サービスの資格を持った人だけが行ってください。

あなたがユニットを開けた後に

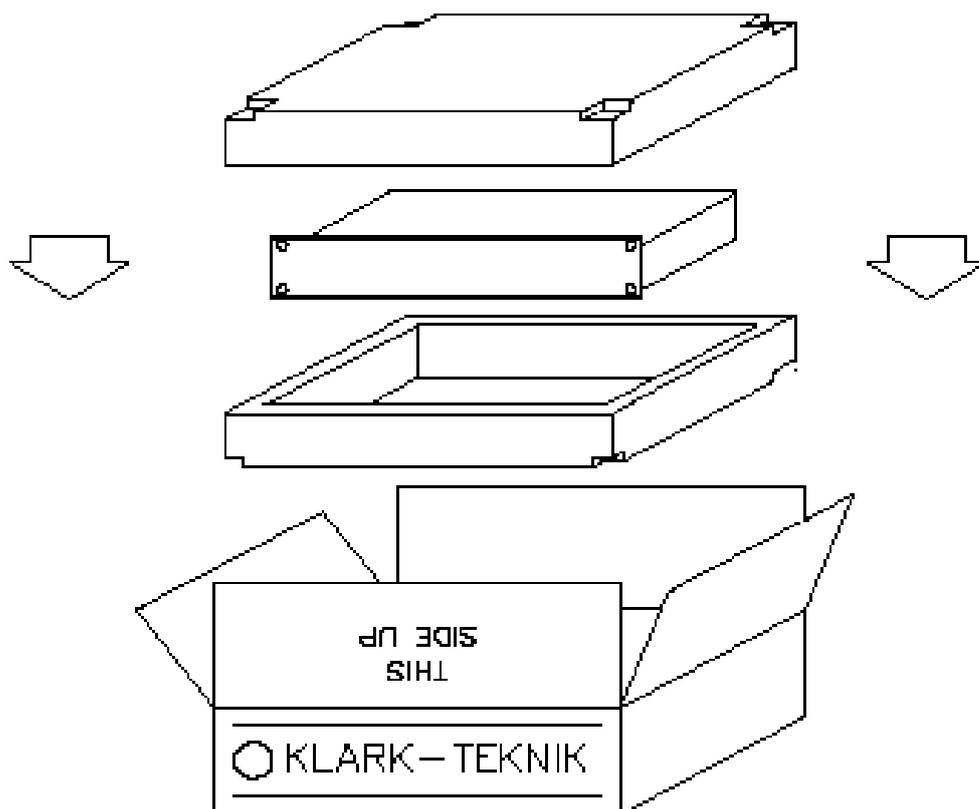
このユニットを送るようなことが発生した場合に備えて、すべての梱包材は大切に保管しておいてください。輸送中に損傷していないか注意深く確認してください。

梱包前に厳格な品質管理検査とテストをして、完全な条件で工場から出荷しています。

もし、ユニットが少しでも損害があったなら、速やかに運送業者に届け出てください。

輸送中の損傷については、受取人であるあなただけが、運送会社に対してクレームを申し立てることが出来ます。

必要なら、あなたの代理店に連絡してください。または最後の手段としてクラークテクニク輸入代理店に連絡を取ってみてください。そのような状況に対して十分に協力してくれます。



導入

録音、放送、スタジオ、ライブサウンド業界の必要仕様を満たすだけでなく、それを超えるようなデザインされた、**Klark Teknik DN3600**プログラムグラフィックイコライザーは、極めて高い品質で最先端オーディオ性能による使いやすい2チャンネルデジタルコントロールの1/3オクターブグラフィックイコライザーです。2つのチャンネルは独立して使うことができ、またはステレオ使用のためにリンクさせる事も出来ます。

イコライザーの柔軟性をさらに拡張するために、このユニットは可変の出来るハイパスフィルターとローパスフィルター、2つのノッチフィルター、周波数と深さの調整、全体のレベル調整が出来るようになっています。非常に大きいディスプレイウィンドウを特徴とし、**DN3600**は最大66のイコライザー調整をプログラムに保存可能です。また、プロMIDIインタフェースを搭載しているため、いくつかの他の**DN3600**または**DN3601**スレーブユニット（最大64）が一台の**DN3600**からコントロールすることが出来ます。

スレーブユニット**DN3601**は、**DN3600**と電氣的に同一ですが、コントロールとディスプレイ機能を簡略したモデルです。16ピンコネクタは、**DN60/DN6000**リアルタイムスペクトルアナライザーと接続することによりルームアナライザーと連動することができ、自動的にイコライザーを行うことが出来るようになります。専売特許のアナログフィルターは、スタンダードの20ビットリニアデジタルシステムを使用するよりもはるかに、優れたヘッドルームとダイナミックレンジをクラークテクニクの**MELT**ハイブリットフィルター回路を使用することによりお届けできます。

改訂された電気回路図からもお分かりになると思いますが、これらのフィルタは非常に信頼ができ、他の設計よりもはるかに安定性を持っています。それらはまた、コイルベースのフィルタと違って電磁干渉に比較的影響されません。分かれた供給レールは、デジタルとアナログの回路を内部でしきるにより最もクリーンなオーディオ信号を保証します。操作上の最大の柔軟性を供給すため、システムは、Qモードを切り換え可能になっています。低いQ設定（Q：360）は、業界標準**DN360**イコライザー、高いQモード（Q：27）は、**DN27**の性能に匹敵するQ設定です。すべてのイコライザー設定で信号に対して最適なノイズ比率とヘッドルームを得るために、イコライザーセクションのゲインコントロール動作は、簡単にイコライザーする前とイコライザーされた後のレベルを変えることなく継続的に出来ます。さらに、オートゲインモードは、安全なヘッドルーム確保や偶然のクリップのリスクを減らし、個々のイコライザーバンドのカットやブースのゲインを自動的に調整するシステムです。

インプットとアウトプットの電気回路は電子バランスで、操作レベルは+4dBuです。

アウトプット電気回路は**MIDAS/XL3**のアウトプットに基づき、非常に高いドライブ機能を得られます。またインプットとアウトプット両方はトランスオプションが利用できます。

従来のグラフィックイコライザーのように分かりやすくするため、DN3600は、バックライトLCDウィンドウにハイとローパスフィルタとノッチフィルタの設定だけでなく従来のグラフィックイコライザーを『バーチャル』に表現し提供します。

規則的にアクセスされる機能のため、マルチ機能ボタンの使用は、曲線ディスプレイ機能、グラフィックおよびシェルビングフィルタ、ノッチフィルタ、およびゲインを結合させた操作に基づいた周波数応答ディスプレイをユーザーに提供し、ユニットが迅速に、効率的に調整できることを可能にしました。

設置

インプットとアウトプットのXLRコネクタは、電子バランスで、ピン1はグラウンドにつながっています。

なぜなら、システムが完全に浮いていて、インプットとアウトプットコネクタは、ピン2またはピン3のどちらかがホットか決まっていない物と接続するからです。

DN3600は、ちょうど2Uの高さで従来の19インチラックに設置でき、固定および可動の設備において使用のできる様なデザインになっています。

不適切な取扱いの処理のため、フロントパネルにかかる過度のストレスを防止するためにユニットの後ろをサポートすることが得策です。

ユニットは十分な換気と熱を持つパワーアンプやコンソール電源などのどのような機器のすぐ上に置くことは、おやめください。

機器に慣れる

フロントパネルの機能

ディスプレイスクリーン：これは大型の、バックライト「スーパーツイスト」-タイプLCDで、青色のバックグラウンドで白/緑色で表示します。メニューオプションは左側にリストされます。様々なステータス情報は一番上のエッジに沿って示されます。1つのチャンネルだけが、ディスプレイに「バーチャル」グラフィックイコライザーフェーダを表示されます。LCDコントラストはメニューオプションを経て調整されます。Adjを見てください。LCDセクションの詳細について、さらに、LCDバックライトは、コントロール操作をする時にLCDバックライトの明るさを増大させる機能を特徴とします。明るい時間は、アジャスト(Adj)を経てソフトウェアコントロールの中で設定できます。LCDメニューにより2秒から60秒まで設定できます。

周波数ボタン：これら30の専門のキー〈それぞれ別個のISOセンター周波数によってラベルを表示〉は、グラフィックの周波数バンドを選び、ローパス、ハイパスおよびノッチフィルタポジションを設定するために使用されます。多くの隣り合ったバンドは、すぐに連続するか、同時に2つのキーを押すことによって選ばれます。選ばれたディスプレイウィンドウ上のフェーダは、ロータリーコントロールのLEVELコントロールによって調整できます。周波数選択の代わりに方法は、FREQ回転コントロールによっても行う事ができます。

FREQ：この回転式のコントロールは、調整のためのイコライザーバンドを周波数ボタンを使う代わりとしての選ぶために使用できます。FREQ回転コントローラまた、多くの隣り合ったフェーダは、それがフラッシュするまでボタンを押し続け、それから、FREQ回転コントロールを使うことによって選ばれます。FREQ回転コントロールは、ノッチフィルタとハイパスフィルタの周波数を設定するために使用できます。

LEVEL：この回転式のコントロールは、どの選ばれたフェーダのレベルでも調整するために使用されます（ゲインフェーダを含みます）。また、ノッチフィルタのアッテネートおよびローパスフィルタの周波数を設定するために使用できます。

BUTTONS 1-4：これらの「ソフトキー」は、イコライザーの様々な機能を選び、操作するために使用されます。次に利用できる機能はユニットの現在の操作モードによって異なります。個々のキーの現在の機能は、そのボタンの隣のLCDディスプレイにおいて示されません。

CURVE/FADER：このボタンは、すべてのグラフィックおよびハイパス、ローパスとノッチフィルタとゲインコントロールのポジションと形から計算されたバーチャルなフェーダディスプレイと周波数応答曲線の合成を切り替えるために使用されます。曲線は、リアルタイムに行われるどのような調整によっても変わります。

GAIN : このボタンは、ゲインフェーダの調整の時に選びます。ゲインフェーダは、0.5dB ステップで、+6から-18 dBまで調整できます。-18dBポイントの1つ下のステップは、選ばれたチャンネルを消音します。ゲインフェーダの選択を解除するためには、もう一度GAINを押してください。DN3600のゲインコントロールは実際の周波数バンド全体に比例しています。これは、従来、不都合だったEQ前とEQ後のゲインコントロールを避けるためや、1つの簡単なコントロールから信号のノイズ比率を最も効率的にするためです。

ウィンドウの数字 : ディスプレイの数字は、現在の操作中のメモリーナンバーと適切な操作モード、スレーブのアドレスナンバーまたはMIDIチャンネルナンバーなど。点滅中のナンバーは、別のDN3600などのリモートコントロール機器によるアクセスを示します。

メーター : 別個の10セグメントバーグラフレベルメーターは、チャンネルAとBの信号のレベルを表示し-12dBから+15dBまでの範囲で監視できます。クリップ警告LEDは、DN3600の電気回路中の7つの異なったポイントで監視され、クリップの2dB内にレベルが一瞬でも到達した時に、点灯します。

電源スイッチ : スイッチは、ユニットのON/OFFです。ユニットがオフの時には、インプット信号は、アウトプットに直接接続されるようにリレーバイパスがあります。

リアパネルの機能

バランス入力XLRコネクター

バランス出力XLRコネクター

プロMIDI XLRコネクター : これらは、従来のMIDI DINソケットと同じ配線に従います。これらは、システム独自の限られたデータ転送を実行し、マスタ/スレーブ機器の複数の装置を接続するために使われます。配線の取り決めのサービスセッションを見てください。

16-Pin IDC インターフェイス : オートイコライザーのためのDN60/DN6000リアルタイムスペクトル分析器を直接持つインタフェースおよび未来の製品のインタフェースとして使われます。

ヒューズを組み込む IEC メインソケット

はじめに (DN3600について)

バーチャルフェーダの操作は、'フェーダ'を選び、そして動かすという点で、従来のグラフィックイコライザーと全く同じです。フェーダは、周波数ボタンのうちのどれか1つを押すことによって直接選ぶか、または、バンドは、**FREQ**回転コントロールフェーダを使ってスキナーできます。選ばれたフェーダは、**LEVEL**回転コントロールによって調整されます。

複数のバンドは、周波数キーのうちの1つを押し、それがフラッシュするまで保持し、別の周波数キーを押すか、または**FREQ**コントロールを回転させることによって選ぶことができます。フェーダの同時選択は、2つのキーを同時にまたは迅速に連続的に押す事で選ぶ事ができます。**LEVEL**コントロールを動かすことにより、現在すべて選ばれたバンドは同時に調整することができます。同時選択を終了するには、周波数キー1つを押すことで解除されます。

チャンネルの選択：ユーザーは、チャンネルAとBを、独立または、一緒に両方とも調整できます。チャンネルは、**A : B : LINK** キーを押すことによって選ぶ事ができます。リンクモードは、**A : B : LINK** キーを押し、保持することによって選ぶ事ができます。リンクモードは、どのような調整でも両チャンネルのフェーダポジションの操作に影響します。もしリンクモードにチャンネルAから入るならば、スクリーンはチャンネルAを表示し続けます。チャンネルBはチャンネルAに変更され従います。もしリンクモードにチャンネルBから入るならば、スクリーンはチャンネルBを表示し続けます。チャンネルAはチャンネルBに変更され従います。

フィルター：ハイおよびローパスフィルタとノッチフィルタへのアクセスは、**MORE EQ** キーを経由して操作できます。フィルタとノッチのポジションは、リアルタイムにどのような調整によっても変わる周波数応答曲線に表示されます。ユーザーは、**A : B**キーを押して調整したいどちらかのチャンネルのフィルタを選ぶことができます。または、**IN/OUT** キーを使うことにより、フィルタ回路のIN/OUTを切り替えることができます。フィルターキーを押すことにより、個々のフィルタを調整することができます。

ハイパスフィルタは、1/3オクターブステップで20Hzから400Hzまでの範囲をカバーし、ローパスフィルタは、1.6kHzから30kHzまでの範囲を1/3オクターブステップでカバーをします。これらのフィルタは12dB/オクターブスロープ特性を持っています。<+>キーを押して選ばれる時には、スクリーンの上部にハイパスおよびローパスフィルタ周波数が表示されます。それらは、**FREQ**と**LEVEL**回転コントロールまたは周波数キーを押すことによってそれぞれ調整することができます。

両方のノッチフィルタは、20Hzから20kHzまでの範囲で1/12オクターブステップで最大12dBのアッテネータまで調整できます。ノッチフィルタが選ばれる時には、そのアッテネータ

と周波数は、スクリーンの上部に表示されます。ノッチは、**LEVEL**コントロールと**FREQ**コントロールまたは周波数キーによって調整できます。

切り替え

最近の15年の間、**Klark Teknik**のグラフィックイコライザーは、世界的にプロフェッショナルオーディオの「業界標準」—**DN360**の品質が一般的になり、優先的に順調に—になりました。そして鋭い**Q**が特徴な **DN27**。これらの個々の好みを満たすように、**DN3600**は2つ（**360**と**27**）の「**Q**」オプションを持っています。

DN3600は、30「結合」 1/3オクターブフィルタを利用します。この結合行動は、作り出す自らのセンター周波数の間で、隣り合ったフィルタが作動することで起こります、しかし複雑な周波数応答は最小の波と位相エラーによって曲がってしまいます。

Q : 360

わずかなブースト、または切られるフィルタが見られるとき、非常に低い波と位相エラーによりスムーズな反応を結果として生じる、相対的には広い**Q**の設定になってしまいます。高いブーストまたはカットの時に、フィルタ**Q**は、正確な特定の周波数でノッチ/アクセントするためにとんがり、隣り合ったバンドで結合しその間でカット/ブーストを提供します。

Q : 27

フルブーストまたはカットでは、**Q : 360**と同じ設定です。わずかなブーストまたはカットの設定では**Q : 360**に相当するゲインで、フィルタ**Q**は広がります。

これは**EQ**曲線の精密なコントロールを与えるけれども、最小の波と位相エラーによってスムーズな曲線を得るためには、フィルタに慎重な設定が必要になることを意味しています。

Qを変えるためには、**Utilities, Auto/Q** そして **Q Type**というラベルのソフトキーを次々と押してください。 **Q Type** キーを押すことで、**Q : 27**と**Q : 360**の間を切り替え、**Q**モードは、スクリーンの上部に表示されます。

メモリー操作

イコライザープログラムは最初（フラット）から作成をするか、または、呼び出したプログラムを修正して使用できます。

最初から始まるためには、**More EQ** を**OUT**に切り替えて、**BYPASS**キーを5秒より多くの間押し続ける事でユニットはリセットされます。

メモリーの呼び出し

ソフトキーを使って**Utilitie**、**Memory**、**Recall**と次々と呼び出してください。

そして、**FREQ**回転コントロールを使用して、数字（**NUMBER**ウィンドウにおいて示されま
す）または名前（**LCD**スクリーンにおいて**fader**ポジションとともに示されます）で必要な
メモリーを選んでください。リコールキー2回押して終了です。現在のメモリーの番号は
NUMBERウィンドウに表示されます。

メモリーの保存

ソフトキーを使って**Utilitie**、**Memory**、**Save**と次々と呼び出してください。

もし要望なら、新しいメモリー位置に記憶したなら、その最後へのメモリーナンバーはデ
フォルトしています。数字でメモリー位置を選ぶために、**FREQ**または**LEVEL**回転コント
ロールを使用し、新しいメモリーに名前を付けるか、前の名前に上書きするために、周波
数キーを使用してください。<キーはバックスペース機能を持っています。**SHIFT**キーはア
クセスを数字の0から9までに変えます。

メモリーの記憶を完成するためには、**Save**キーを2回押してください。

両方のチャンネルからのデータは、リンク状態に関係なく新しい位置に保存されます。

注：たとえいつパラメータが調整されても、改訂されたデータは、確実に保存されるまで、
オリジナルメモリーデータに上書きしないように、一時的な場所に保存されています。
ユニット電源スイッチが切られる時でも、一時的な場所のデータは失われません。電源を
オンすると、ユニットは電源オフから正確に前の状態に戻ります。

オート周波数—DN3600/DN60接続

DN3600は、Klark Teknikモデル DN60リアルタイムスペクトル分析器と連結することができます。結合させることにより、サウンドシステム周波数応答を補足するために自動的イコライザ機能を実行するために使用します、これを実行するためには、次の通り取りかかってください：

- 1、両方のユニットが、電源をOFFにしてください。DN60とDN3600と接続してください。相互接続は、DN3600に付属している16ピンケーブルを使うようにしてください。ケーブルは、DN60の「プロッターインタフェース」とDN3600「DN60インタフェース」を接続してください。そして、DN60を最初に電源を入れ、初期設定をさせ、DN3600の電源を入れてください。
- 2、DN60のピンクノイズソースをミキシングコンソールなどレベルコントロールができる機器を通してDN3600インプットに信号を供給してください—調整する必要があるチャンネルに。ピンクノイズのレベルを下げておいてください。ミキシングコンソール入力チャンネルのピンクノイズ信号がつながっているチャンネルのイコライザを必ずフラットまたは、バイパスの状態であることを確認してください。
- 3、会場の視聴／測定場所にDN60のマイクロフォンをセットしてください。
- 4、ゆっくり、システムを通して平均的な視聴レベルにピンクノイズのレベルを合わせてください。
- 5、DN60コントロールを**Avg., Cont., Resp 3., 1 dB resolution**、**mic input**にセットしてください。完全な周波数応答ディスプレイが見られるまで、レベルを調整してください。
- 5、**More EQ**を**OUT**にしてください。(もし必要なら**More EQ, In/Out, Exit**).
- 6、DN3600の **Auto/Q**をいれてください(**Utilities, Auto/Q**)。

繰り返し、十分な時間、DN6000ディスプレイが落ち着くまでの間で**Auto EQ**ボタンを押してください。DN60ディスプレイにおいて平らな反応が得られるまで続けてください。6から8回までの繰り返せば通常十分です。繰り返しの間、**DN60 Reference**レベルを調整することが必要になるかもしれません。なぜそのようなことが起こるかは、個々の繰り返しにおいて、DN3600は、測定された部屋反応をDN60から得て、部屋反応訂正を計算し、それを+/-4dBに制限し、これを現在のグラフィック設定に追加します。個々の繰り返しによって測定された反応は、最終的にフラットとますます近くなりすべてのDN3600は、少ないランダムな変化を訂正することになっています。

注、DN3600 はバイパスモードにないはずですが、もしそれが部屋訂正曲線であるならば、まだ DN3600 設定に追加しているけれども、測定された反応は影響されず、オート EQ 機能は指定されるように機能しません。

好まれた曲線のイコライザー

オートEQ機能で、それをフラットにする（測定されたDN60により）ためのイコライザーにしようとする間、DN360側のバイパス設定を利用して、好みのハウス曲線におおよそのオートEQを実行することは可能です。

DN360のハウス曲線を上記のセットをするか、またはメモリーから望みの曲線を呼び込むか（メモリー自身はオートEQ機能により修正されません）。上記で1.において定義されるようにDN60とDN360を接続してください。上記で2.において定義されるようにピンクノイズをシステムに接続してください。DN60オペレータマニュアルにおいて説明されるように部屋反応を測定してください。DN360を**Bypass** してください。オートEQ機能を1回だけ実行してください。繰り返さないでください。

注、スペクトルディスプレイを **mem. Mode** に切り替え DN60 メモリーに保存し、させることにより「凍結」します。

ルーム反応は、オートEQ調整限界の+/-4dB ないで、訂正されました。このオートEQ調整限界は、おおよその部屋訂正の結果です。オートEQ機能を1回実行することの理由は、ピンクノイズの測定されたスペクトルが、DN360により修正されないからです。

イコライザーによって定義された接続をフラットにするために、個々の繰り返しの上では、全体のシステム反応をもたらす（DN360を含みます）より近くフラットにします。バイパスされたDN360にはこれは起こるはずがありません。それゆえ、同じ訂正がいつも追加されます。

オートイコライザー—DN3600/DN6000接続

DN3600はKlark TeknikモデルDN6000オーディオ分析器またはDN60リアルタイムスペクトル分析器に結合できます。結合は、ルームやシステム周波数応答のために補うための自動的均等化機能を実行するために使用します。

これを行うためにDN6000を次の通りにしてください。：

- 1、DN6000をDN3600と接続してください。接続は、DN3600に付属している16ピンケーブルを使用してください。
- 2、ケーブルは、DN3600の「DN3600インタフェース」とDN6000の「DN60インタフェース」を接続して使用してください。この接続はDN6000の電源を切って行ってください。DN6000を周波数モードの設定してください。アウトプットユーティリティで、フィルタのかかかっていないピンクノイズにセットしてください。Weightingをフラットにしてください。ピークホールドスイッチを切ってください。スケールを60dBにセットしてください。Resptimeを1秒以上に設定してください。
- 3、DN6000アウトプットからDN3600インプットに信号を供給してください—調整の必要があるチャンネルに—
- 4、会場の視聴／測定場所でDN6000マイクロフォンをセットしてください。
- 5、More EQをOUTしてください（もし必要ならMore EQ, In/Out, Exit）。
- 6、DN6000がMUTEではなく、RUNING（信号が出ている状態）で動いていることを確かめてください。
- 7、LCDの上部半分にスペクトル分析がなるべく表示されるように、DN6000のレベルとレベルトリムコントロールを調整してください。
- 8、DN3600オート/Qメニューを入力してください（Utilities, Auto/Qを押してください）。繰り返し、十分な時間、DN6000ディスプレイが落ち着くまでの間でオートEQボタンを押してください。DN6000ディスプレイにおいて平らな反応が得られるまで続けてください。6から8回までの繰り返しで通常十分です。押している間のDN6000レベルトリムコントロールを調整することが必要であるかもしれません。

なぜそのようなことが起こるかは、個々の繰り返しにおいて、DN3600は、測定された部屋反応をDN6000から得て、部屋反応訂正を計算し、それを+/-4dBに制限し、これを現在のグラフィック設定に追加します。

個々の繰り返しによって測定された反応は、最終的にフラットとますます近くなりすべてのDN3600は、少ないランダムな変化を訂正することになっています。

注、DN3600はバイパスモードにないはずですが。もしそれが部屋訂正曲線であるならば、まだDN3600設定に追加しているけれども、測定された反応は影響されず、オートEQ機能は指定されるように機能しません。

好まれた曲線のイコライザー

オートEQ機能で、それをフラットにする（測定されたDN6000により）ためのイコライザーにしようとする間、DN3600側のバイパス設定を利用して、好みのハウス曲線におおよそのオートEQを実行することは可能です。

DN3600のハウス曲線を上記のセットをするか、またはメモリーから望みの曲線を呼び込むか（メモリー自身はオートEQ機能により修正されません）。上記で定義されたようにDN6000とDN3600を接続し、設定してください。

注：スペクトルディスプレイは、DN6000でのRUNのスイッチを切ることによって「凍結」できます。DN3600はバイパスにしておいてください。オートEQ機能を1回実行してください。繰り返さないでください。

ルーム反応は、オートEQ調整限界の+/-4dBないで、訂正されました。

このオートEQ調整限界は、おおよその部屋訂正の結果です。

オートEQ機能を1回実行することの結果は、ピンクノイズの測定されたスペクトルがDN3600により修正されないからです。

イコライザーによって定義された接続をフラットにするために、個々の繰返しの上では、全体のシステム反応をもたらす（DN3600を含みます）より近くフラットにします。

バイパスされたDN3600ではこれは起こるはずがありません。それゆえ、同じ訂正がいつも追加されます。

オートゲイン

オートゲイン機能を作動する時により、DN3600のダイナミックレンジとヘッドルームが最も良い使用になるように補助します。周波数バンドをブーストした時に、オーバーロードを防止するためにイコライザーゲインを下げる事が得策です。周波数バンドをカットした時に、最適な信号のノイズ比率に維持するためにイコライザーゲインを上げることが得策です。いくつかのバンドがブーストされ、いくつかのバンドがカットされた時、特に、エネルギースペクトルが決して均一ではない典型的な音楽や声の信号は、すべての周波数バンドがフラットからかけ離れており、状況はより複雑になります。

オートゲイン機能は、**Utilities, Auto/Q, Auto Gain**を押すことによって作動し、同じ方法で効果を無くすことができます。動作することにより、DN3600はどのような新しいフィルタ調整でも典型的な音楽信号のエネルギーレスポンスのカーブに対しても、ヘッドルームを最適にするために働き、補正するためにゲインコントロールを調整します。

その動作を示すために動く時、ゲインフェーダはフラッシュします。オートゲイン表示はゲインフェーダの上にテキストとして示されます。

MASTER/SLAVE操作

Klark TeknikプロMIDIマスター/スレーブシステムは、DN3600のフロントパネルから個々に、または同時に最高65台のDN3600とDN3601ユニットを操作することができます。

システムは、接続するのは簡単です、動作するのも簡単で信頼できない電源および損われた接続の危険度からユニットを保護するので安全です。

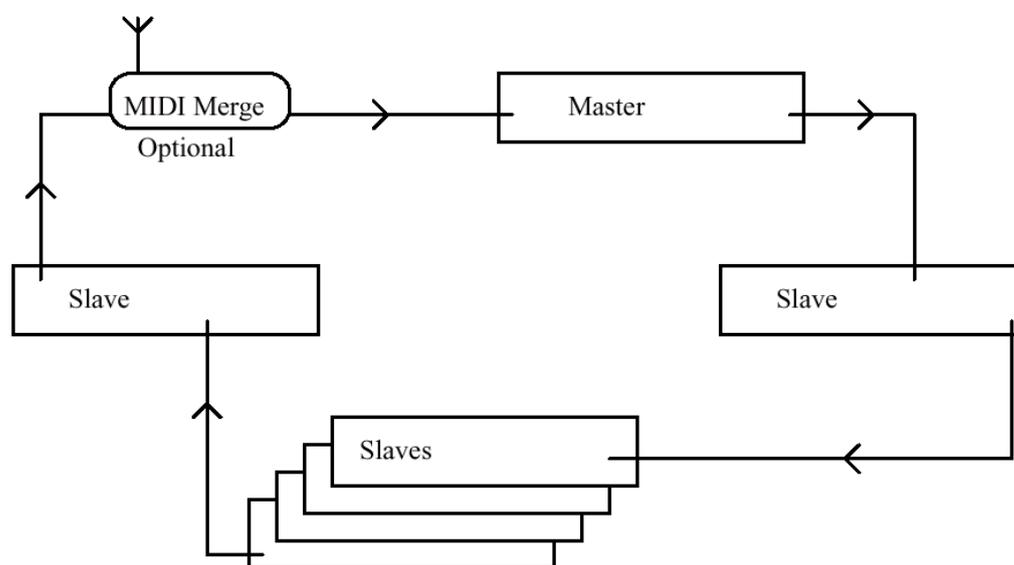
いったんプログラムが作られたら、スレーブに常駐しているイコライザープログラムメモリーはDN3600マスタユニットの必要なしで、普通のMIDIプログラム変更コマンドにより選ぶことができます。

これは経済的な方法を提供するスレーブシステムとして大きな設備場所での操作に対してうっかりした不注意からの安全な保護や費用効率を良くします。

マスタ/スレーブは、2台以上DN3600および/またはDN3601ユニットがそれらのプロMIDIインタフェースをリンクして閉じられたループによって接続された時に、自動的に構成されます。(MIDI INよりMIDI OUT)

注：ループ接続は閉じられなければなりません。個々のMIDI OUTは次のMIDI INに必ず接続してください。もしある他の機器がKlark Teknikのループ上に混在したなら、MIDIプログラムチェンジメッセージは、このMIDI MERGEユニットを通さなければなりません。

MIDI Signal Flow:



ループ内のどのDN3600でも、スレーブサブメニューを入力することによってマスターにすることができます(**Utilities, More..., Slaves**と押してください)。

ループ上で他のDN3600とDN3601ユニットは、ナンバーを自動的に設定します。スレーブとして1番目がNO,1 2番目はNO,2..... 最大64のスレーブがこのように接続できます(マスターを含む65のユニット)。

個々のスレーブユニットにアドレスするように、マスターのスレーブサブメニューを入力してください。スレーブアドレスナンバーは、**FREQ**回転コントロールを使って変更できます。ソフトキーのスレーブキーを2回押してください、選ばれた機器のコントロールを開始します。

現在のすべてのコントロールとディスプレイモードは、選ばれたスレーブユニットにだけ影響します。選ばれたスレーブの番号は、LCDスクリーンに強調された数字で表示されます。**Slaves, Lock** と **Adj**、**LCD**サブメニューはマスタユニットと関連します。別のスレーブにアドレスするように、スレーブサブメニューを入力し、新しいスレーブナンバーを選んでください。ループのすべてのユニットにアドレスするように、スレーブサブメニューを入力し、**SELECT ALL**を選んでください。現在のすべての機能とコントロールは、マスタを含むすべてのユニットに影響します。現在例えば、オートEQ機能を実行するとして、マスタと接続されたDN60/DN6000のスペクトルを平均化するために、ループのすべてのユニットを調整します。

正常なオペレーションに戻るために、マスター自身、スレーブ選択の調整は、

「**STANDALONE**」に戻らなければなりません。スレーブユニットは、変更されるまで、それらの現在の設定を保有します。現在のすべてのコントロールとディスプレイモードは、マスタユニットにだけ影響します。

注：MIDIループは1台のマスターしか持つことができません。別のマスターの開始そのスレーブメニューを入りオリジナルマスタとループ振り分けをキャンセルしてください

リモートコントロールの時のフロントパネルからのオペレーション

リモートコントロールの時にフロントパネルによる操作は2つの反応があります：

もしユニットが個々に選ばれるならばフロントパネルコントロールは使用できなくなります。

もしすべてのユニットが選ばれる時、すなわち**SELECT ALL**ならばフロントパネルコントロールは可能になります、最初の行動は、リモートコントロールを無効にするために用いられます。

リモートコントロールの視的表示

選ばれたユニットは、操作モードを変更し、以下のような表示して反応します：

DN3600 V3.0ソフトウェアとDN3600C V3.0Cソフトウェアダイナミックスクリーンオペレーションフェーダノブなどリモートコントロールメッセージに呼応して動きます。

選択オペレーションの間のスレーブナンバーをナンバーディスプレイに表示し他の時に、現在のメモリーナンバーを表示しそして、ユニットが個々に選ばれる時はフラッシュします。

オペレーションの詳細

最初のディスプレイ初期設定

ソフトキー操作：**More EQ**

A : B : Link

Utilities

Bypass

フェーダの調整

『バーチャル』グラフィックイコライザーフェーダは適切な周波数キーを押すか、**FREQ**回転コントロールの回転により選ばれます。

隣り合ったフェーダの範囲を選ぶために、いくつかの方法があります

- 1、一つの周波数キーがフラッシュし始めるまで押してください。これで範囲のある端をセットします。2番目の周波数キーを押すか、または**FREQ**回転コントロールによって範囲の他の終わりを決めてください。選ばれたフェーダとフェーダは強調されます。
- 2、2つの周波数キーを同時に押してください。
- 3、迅速な連続で、2つの周波数キーを押してください。

選ばれたフェーダとフェーダの周波数または周波数範囲は、スクリーンの上部にテキストとして表示できます。選ばれたフェーダは、**LEVEL**回転コントロールによって調整されます。調整範囲は+/-12dBの0.5dBステップです。フェーダレベルまたはフェーダ範囲のレベルの平均的を、スクリーンの上部にテキストとして表示します。また、スクリーンの上部に現在のメモリー名、アドレスされたチャンネルと**Q**モードが表示されます。

ゲインの調整

GAINキーは、どのような調整の間でも、いつでも押すことによりゲイン調整のフェーダ調整ができます。ゲイン調整が選ばれる時には、ゲインフェーダは強調されます。ゲインは**LEVEL**回転コントロールによって調整ができます。調整の範囲は、+6から-18dBまでの0.5dBステップです。-18dB未満は、ユニットは消音されます。ゲイン調整モードに対して、ゲイン設定はスクリーンの上部にテキストとして表示されます。ミュートの表示は、スクリーンの上部に、**Muted**アイコンで表示されます。

CURVE/FADER

CURVE/FADERキーは、曲線とフェーダのスクリーン表示の切り替えをします。

フェーダディスプレイが、アドレスされたチャンネルの30グラフィックフェーダのポジションを示し、曲線ディスプレイはフェーダポジション、フィルタ**Q**と影響、ローおよびハイパスフィルタ、ノッチ、およびゲインを考慮したユニットの実際の周波数応答を計算し表示します。グラフィックフェーダを選び、曲線ディスプレイを見て調整する間でも、どの変化でもリアルタイムで調整でき変化を示します。

More EQ

ソフトキー1は**More EQ**テキストで表示されます。このキーを押すことにより**More EQ**メニューとフィルタ調整ディスプレイが選ばれます。下で見てください。

もし選ばれたチャンネルで**More EQ**フィルタが、回路上にあるならば、**More EQ**メニューのテキストは強調されるでしょう。

A : B : Link

ソフトキー2は**A : B : Link**テキストで表示されます。操作したいチャンネルAとBの間をこのキーで切り替えることができます。もし1秒以上の間キーが保持していると、リンクモードが選ばれます。リンクモードでは、すべてのフェーダ調整は両方のチャンネルに影響します。もしリンクモードにチャンネルAから入ったなら、チャンネルAの表示がされ、チャンネルBはそれに従います。もしリンクモードにチャンネルBから入ったなら、チャンネルBが表示されて、チャンネルAは従います。A : B : LINK表示はスクリーンの上部に=A=、=B=、A+B、またはB+Aと表示されます。

Utilities

ソフトキー3は**Utilities**テキストで表示されます。このキーを押すことによりユーティリティメニューが選ばれます。下で見てください。

Bypass and Reset

ソフトキー3は**Bypass**テキストで表示されます。このキーを押すことによりグラフィックのイコライザーセクションがバイパスされます。

ゲインコントロールおよび**More EQ** フィルタとノッチは、回路につながっています。

もしバイパスキーが、5秒以上押されているなら、アドレスされたチャンネルのすべてのグラフィックフェーダは、0dB ポジションにリセットされます。

More EQ メニューとディスプレイ

More EQキーはスタートアップメニューよりアクセスする事ができます。

ソフトキーオプション： **Filters**

A : B : Link

In/Out

Exit

More EQ Display

More EQモードにおいて、ディスプレイは、ノッチフィルタとハイパスとローパスフィルタ設定から計算された周波数応答曲線を示します。

CURVE/FADER

CURVE/FADERキーが押された時は、ディスプレイはグラフィックフェーダポジションを含んだ周波数応答曲線を表示します。

Filters

ソフトキー1は**Filters**テキストで表示されます。このキーを押すことによりフィルタ調整モードが選ばれます。下で見てください。

A : B : Link

ソフトキー1は**A : B : Link**テキストで表示されます。操作したいチャンネルAとBの間をこのキーで切り替えることができます。もし1秒以上の間キーが保持していると、リンクモードが選ばれます。リンクモードにおいて、すべてのフェーダ調整は両方のチャンネルに影響します。もしリンクモードにチャンネルAから入るならば、チャンネルAが表示され、チャンネルBはそれに従います。もしリンクモードにチャンネルBから入るならば、チャンネルBが表示され、チャンネルAはそれに従います。

A : B : LINK表示はスクリーンの上部に=A=、=B=、A+B、またはB+Aとして示されます。リンクの選択をしても2つのチャンネルの操作がリンクするだけで、変化を確実な設定にあわせた時を除いて、チャンネルの間の詳細はコピーしません。完全な詳細は以下のフィルタ調整メニューとディスプレイセクションにおいて提供します。

In/Out

ソフトキー3は**In/Out** テキストで表示されます。

押される時は、ハイ/ローパスフィルタおよび2つのノッチフィルタの回路に切り替わりでIN/OUTします。チャンネルがリンクされる時には、新しい設定を持つマスタの現在表示されたチャンネル作動が、チャンネルにコピーされます。In/Out表示はメニューにおいて強調されます。フィルタが回路から離れている時は、フィルタキーは使用できません、ディスプレイは平らな周波数応答を示します。

Exit

ソフトキー4は **Exit** テキストで表示されます。押される時は、キーはユニットのスタートアップディスプレイとメニューに戻ります。

フィルタ調整メニューとディスプレイ

フィルタキーにアクセスをしたいときは、**More EQ**キーを押してしてください。

ソフトキーオプション：**Notch 1**

Notch 2

<+>

Back

Display

フィルタ調整モードにおいて、ディスプレイは、ノッチフィルタとハイパスとローパスフィルタ設定から計算された周波数応答曲線を示します。

CURVE/FADER

CURVE/FADERキーが押される時には、ディスプレイはグラフィックのフェーダポジションを含んだ周波数応答曲線を表示します。

Notch 1

ソフトキー1は**Notch 1**テキストで表示されます。押して強調した時、調整のためにキーはノッチ1を選びます。ノッチフィルタ周波数は、周波数キー（1/3オクターブISO周波数）またはFREQ回転コントロールにより設定されます（1/12オクターブステップ）。リンクされる時には、表示されたチャンネルの新しい周波数設定に、チャンネルはコピーされます。

ノッチ周波数はスクリーンの上部にテキストとして示されます。ノッチフィルタの深さは、1dBステップで0から-12dBまでの範囲でLEVEL回転コントロールにより調整されます。

リンクされる時には、2つのチャンネルの設定がリンクされ、両方のチャンネルの設定は回転式のコントロールの1回のクリックで1dBずつ増大するか、または減少します。

ノッチの深さはスクリーンの上部にテキストとして示されます。

Notch 2

ソフトキー2は**Notch 2**テキストで表示されます。押して強調した時、調整のためにキーはノッチ2を選びます。ノッチフィルタ周波数は、周波数キー（1/3オクターブISO周波数）またはFREQ回転コントロールにより設定されます（1/12オクターブステップ）。リンクされる時には、表示されたチャンネルの新しい周波数設定に、チャンネルはコピーされます。

ノッチ周波数はスクリーンの上部にテキストとして示されます。ノッチフィルタの深さは、1dBステップで0から-12dBまでの範囲でLEVEL回転コントロールにより調整されます。

リンクされる時には、2つのチャンネルの設定がリンクされ、両方のチャンネルの設定は回転式のコントロールのワンクリックで1dBずつ増大するか、または減少します。

ノッチの深さはスクリーンの上部にテキストとして示されます。

<+>

ソフトキー3は<+>テキストで表示されます。押されて強調される時は、このキーはハイおよびローパスフィルタを調整のために選びます。ハイパスフィルタ周波数は、周波数キーまたはFREQ回転コントロールにより設定されます。ローパスフィルタ周波数は、周波数

キーまたはLEVEL回転コントロールにより設定されます。リンクされた時、現在表示されているチャンネルの設定は調整の間にもう一つのチャンネルにコピーされます
ハイおよびローパスフィルタ周波数は、スクリーンの上部にテキストとして示されます。

Back

ソフトキー4はBackテキストで表示されます。押された時には、このキーはMore EQメニューにユニットを戻します。

Utilities menu.

Utilitiesキーには、スタートアップメニューからアクセスすることができます。

ソフトキーオプション：**Auto/Q**

Memory

More...

Exit

Curve/Fader

曲線とフェーダキーはスクリーンの表示を曲線/フェーダの切り替えをします。

フェーダは、アドレスされたチャンネルの30グラフィックフェーダのポジションを示し、曲線ディスプレイは フェーダポジション、フィルタQと影響、ローパスおよびハイパスフィルタ、ノッチ、およびゲインを考慮してユニットの実際の周波数応答を計算し表示します。

Auto/Q

ソフトキー1は**Auto/Q** テキストで表示されます。

押される時には、このキーはオート/Qメニューを選びます。

以下で見てください。

Memory

ソフトキー2は**Memory** テキストで表示されます。押される時には、このキーはメモリー/ロックメニューを選びます。以下で見てください。

More...

ソフトキー3は**More.** テキストで表示されます。「より多くのユーティリティ」の意味です。

押される時には、このキーは、MIDIチャンネルとスレーブの選択とLCD逆転設備を選びます。以下で見てください。

Exit

ソフトキー4は**Exit** テキストで表示されます。

押される時には、このキーはユニットをスタートアップメニューに戻します。

Auto/Q menu.

Utilitiesキーを押すことによって**Auto/Q**キーにアクセスできます。

ソフトキーオプション：**Auto Gain**

Auto EQ

'Q' type

Exit

Curve/Fader

曲線とフェーダキーは、スクリーンの表示を曲線／フェーダに切り替えます。

フェーダディスプレイが、アドレスされたチャンネルの30グラフィックフェーダのポジションを示し、曲線ディスプレイはフェーダポジション、フィルタQと影響、ローパスおよびハイパスフィルタ、ノッチ、およびゲインを考慮してユニットの実際の周波数応答を計算し表示します。

Auto Gain

ソフトキー1は**Auto Gain** テキストで表示されます。押された時、このキー切り替えは、オート利益機能をオンまたはオフのユニットのスタートアップスクリーンに戻ります。

ゲインフェーダは、どのように調整されたグラフィックのフェーダに作られた単一性を維持しながらオーディオ信号のためのゲインを補うために自動的に動きます

Auto EQ

ソフトキー2は**Auto EQ**テキストで表示されます。Klark TeknikモデルDN60/DN6000リアルタイムスペクトル分析器の個々の「DN60インタフェース」、および「プロッター／データ」ポートにDN3600が接続されている時にこの機能を使用します。

キーが押される時には、DN3600はその瞬間にDN60/DN6000分析器により表示されている周波数スペクトルを読みます。フェーダ調整は、分析された部屋またはシステム反応のために補い、選ばれたチャンネル（A、B、または-LINKモード-両方）に適用されます。

ユニットは、オートEQ機能で繰り返されて来るデータをオート／Qメニューでとどめていきます。

Q Type

ソフトキー3は**Q Type** テキストで表示されます。キーが押される時 アドレスされたチャンネルのQモードを360/27を切り替えます。Qモードはスクリーンの上部にテキストとして示されます。Qモードを決定します、そしてグラフィックのフィルタの音と影響は、

Q : 360は、業界標準 Klark Teknik DN360グラフィックイコライザーの広くなめらかな結合し、使いやすいフィルタです。**Q : 27**は、Qが狭くそれほど影響のでない、Klark TeknikモデルDN27グラフィックイコライザーのLCRフィルタ方式です。

Exit

ソフトキー4は**Exit** テキストで表示されます。

このキーが押された時は、ユニットはスタートアップメニューに戻ります。

Memory/Lockout メニュー

メモリーキーは、ユーティリティキーを押すことによりアクセスできます。

ソフトキーオプション：**Recall**

Save

Lock

Exit

Curve/Fader

曲線とフェーダキーは、スクリーンの表示を曲線／フェーダと切り替えます。フェーダディスプレイが、アドレスされたチャンネルの30グラフィックフェーダのポジションを示し、曲線ディスプレイは フェーダポジション、フィルタQと影響、ローパスおよびハイパスフィルタ、ノッチ、およびゲインを考慮してユニットの実際の周波数応答を計算し表示します。

Recall

ソフトキー1は**Recall**.テキストで表示されます。このキーは、66の名付けられたメモリーのうちのどれでも呼び出す事を可能にします。メモリーを呼び出すには：

- 1、リコールキーを一回押してください。
- 2、LCDがメモリー名とフェーダポジションを示します、ナンバーウィンドウは、選ばれたメモリー数を示します。**FREQ**または**LEVEL**回転コントロールによって名前および数字によって必要なメモリーを選んでください。
- 3、リコール操作は、**Exit**または**Save**キーを押すことによっていつでも解除できます。
- 4、再びリコールキーを押してください。この時すべてのフェーダ、フィルタ、ゲイン、Q、およびチャンネル設定がアップデートされます。ユニットはスタートアップに戻ります。

現在のメモリー名はスクリーンの上部にテキストとして示されます。いくらかのマニュアルの変化が加えない限り、現在のメモリー数はナンバーウィンドウにおいて示されます。

Save

ソフトキー2は**Save**.テキストで表示されます。このキーは、現在のイコライザー設定が66のメモリーのうちのどこに記憶されているか表示します。個々のメモリーは8文字の名前を付け加えることができます。メモリーを保存するために：

- 1.保存キーを1回押してください。
- 2.**FREQ**または**LEVEL**回転コントロールによってメモリーナンバーを選んでください。メモリーナンバーはナンバーウィンドウにおいて示されます。メモリー名（もしあれば）LCDにおいて示されます。
- 1、し必要なら、新しいメモリー名を入力するか、または周波数キーを使って古いメモリー名を編集してください。

- 2、これらはAからZまでのアルファベットと一致しています。**SHIFT**キーを押すことによって、0から9への番号にアクセスできます。<キーはバックスペースまたは削除機能です。
 - 4、リコール操作を無効にするには、**Exit**または**Save**キーを押すことによっていつでも解除できます。
 - 5、**Save**キーを2回押してください。
- すべてのフェーダ、フィルタ、ゲイン、Q、および名前とチャンネル設定は、選ばれたメモリー位置に記憶されます。ユニットはスタートアップスクリーンに戻ります。

Lock

ソフトキー3は**Lock**テキストで表示されます。このキーは2つのロックモードへのアクセスを許します。キーが押される時には、メニューオプションは以下に変わります：

Full

Partial

Exit

Full

完全なロックはすべてのコントロールへのアクセスを防止します。完全ロックがセットされた後に、唯一可能な操作は、**Unlock**キーを押し、パスワードをタイプ入力することです。もし正しいパスワードがタイプ入力されるならば、完全ロックは解除されます。

完全ロックをセットするために：

- 1、周波数キーを使って、要求される最高8文字のアルファベットパスワードをタイプ入力してください。
- 2、操作解除は、**Exit**キーを押すことによって解除できます。
- 3、**Full**キーを押してください。

Partial (一部)

部分的なロックはメモリーリコールを除いてすべてのコントロールへのアクセスを防止します。部分的ロックがセットされた後に、唯一可能な操作は、メモリー（リコールキーを押してください）を呼び出すこと、または**Unlock**キーを押し、正しいパスワードをタイプ入力することによってユニットのロックを開けることです。もし正しいパスワードがタイプ入力されるならば、部分的ロックは解除されます。部分的ロックをセットするために：

- 1、周波数キーを使って、要求された最高8文字のアルファベットパスワードをタイプ入力してください。
- 2、操作を無効にするには、**Exit**キーを押すことによって解除できます。
- 3、**Partial**キーを押してください。

Exit

ソフトキー4は**Exit**テキストで表示されます。このキーを押すことによりユニットはスタートアップメニューに戻ります。

More... Utilitiesメニュー

More... キーはUtilitiesキーを押すことによりにアクセスすることができます。

ソフトキーオプション：**Slaves**

MIDI Chan

Adj. LCD

Exit

Curve/Fader

曲線とフェーダキーは、スクリーンの表示を曲線／フェーダと切り替えます。

フェーダディスプレイが、アドレスされたチャンネルの30グラフィックフェーダのポジションを示し、曲線ディスプレイはフェーダポジション、フィルタQと影響、ローパスおよびハイパスフィルタ、ノッチ、およびゲインを考慮してユニットの実際の周波数応答を計算し表示します。

Slaves

ソフトキー1はSlaveテキストで表示されます。

このキーを押すことは、スレーブ機器の選択にアドレスされることを可能にします。このキーを押すことで、DN3600に、どのような接続されたDN3600/DN3601ユニット上で、どのユニットでもマスターとして仮定することができます。FREQまたはLEVELロータリーを使ってください様々なオプションを通して一回りするコントロール：

STAND ALONE

オノーマルのペレーションのモード。すべてのコントロールと調整は、唯一ローカルなDN3600ユニットにだけ影響します。DN3600自身をコントロールするために、いつもSTAND ALONEモードに戻らなければなりません。

ALL

すべてのコントロールと調整は、ネットワーク〈ローカルを含む〉マスターDN3600ユニットに接続された、すべての互換のスレーブ機器に影響します。

スレーブ 1から64

オペレーションのマスター／スレーブモード。アドレスするように、一台のスレーブ機器を選んでください。スレーブが選ばれる時には、すべてのコントロールと調整は、そのスレーブにだけ影響します。変化はローカル、マスターDN3600ユニットには影響しません。DN3600は、本体をコントロールするために、STAND ALONEモードに戻らなければなりません。

操作を無効にするには、Exitキーを押すことによっていつでも解除することができます。

Slaves キーを2回押すことで選択を完成します。ユニットはその時スタートアップスクリーンに戻り、選ばれたユニットのコントロールをすることができます。

MIDI チャンネル

ソフトキー2は**MIDI Chan**テキストで表示されます。このスイッチを押すことによりMIDI送受信チャンネルの選択が可能になります。FREQまたはLEVEL回転コントロールによって、OMNIオンモード（すべてのチャンネルを受け取る）またはOMNIオフモードと1から16までのMIDIチャンネルのうちの1つを選んでください。

操作を無効にするなら、**Exit**キーを押すことによっていつでも無効にできます。設定を完成するためには、**MIDI Chan**キーを2回押してください。ユニットはそのMIDIチャンネル数をアップデートし、スタートアップスクリーンに戻ります。

DN3600は、その割り当てられたチャンネルで1から66までのMIDIプログラムチェンジメッセージを認めて、1から66までのメモリーを見つけ出します。

また、DN3600は、1から66にMIDIプログラムチェンジメッセージに送ります、メモリーリコールコマンドはフロントパネルを経て入力され見つけ出されます。

Adj. LCD

ソフトキー3は**Adj. LCD**テキストで表示されます。このキーはLCDスクリーン調整へのアクセスを許します。このキーが押される時には、メニューオプションは以下に変わります：

Inv LCD

Exit

Inv LCD

押される時、このスイッチは、正常なディスプレイ（青色のスクリーンの白または緑色の文字とグラフィックス）と逆にされたディスプレイ（白または緑色のスクリーンの青色の文字とグラフィックス）のLCDスクリーンの切り替えができます。

切り替えた後のディスプレイは、ユニットは**Adj LCD**スクリーンにとどまります。

周波数エンコーダー

周波数エンコーダーは、ディスプレイブライトアップタイムを調整するために使用します。時間は2秒から60秒まで調整できます。設定は電源を落しても記憶されます。

レベルエンコーダー

レベルエンコーダーは、LCDのコントラストを調整するために使用します。設定は電源を落しても保持されます。

Exit

ソフトキー4は**Exit** テキストで表示されます。

このスイッチが押される時には、ユニットはスタートアップメニューに戻ります。

仕様データ

INPUTS

Type
Impedance (ohm)
Balanced
Unbalanced
Max. level

TWO

Balanced (electronically)
20k
10k
+22dBu

OUTPUTS TWO

Type
Min. load impedance
Source impedance
Max. level

Balanced (electronically)
600ohm
50ohm
+22dB into >2kohms

PERFORMANCE

Frequency response /EQ flat
Distortion @ +4dBm
Equivalent input noise
(20Hz to 20kHz unweighted)
Overload indicator
Gain

+/-0.5dB (20Hz to 20kHz)
<0.02% @ 1kHz
< -94dBu
+19dBu
-18 to +6dB

FILTERS

Type
Graphic ISO Centre Frequencies
Tolerance
Maximum Boost/Cut
Step size
High pass filter slope
Step size
Low pass filter slope
Step size
Notch filters
Maximum cut
Step size

Revised MELT hybrid
30, 25Hz - 20kHz 1/3 Octave
+/-5%
12dB
1/2dB
12dB/Octave 20Hz - 400Hz
1/3 Octave
12dB/Octave 30kHz - 1.6kHz
1/3 Octave
Two per channel, varying Q
12dB
1/12 Octave and 1dB

POWER REQUIREMENTS

Voltage
Consumption

100 - 240 Vac @ 50 - 60 Hz
<53 VA

DIMENSIONS

Width
Height
Depth

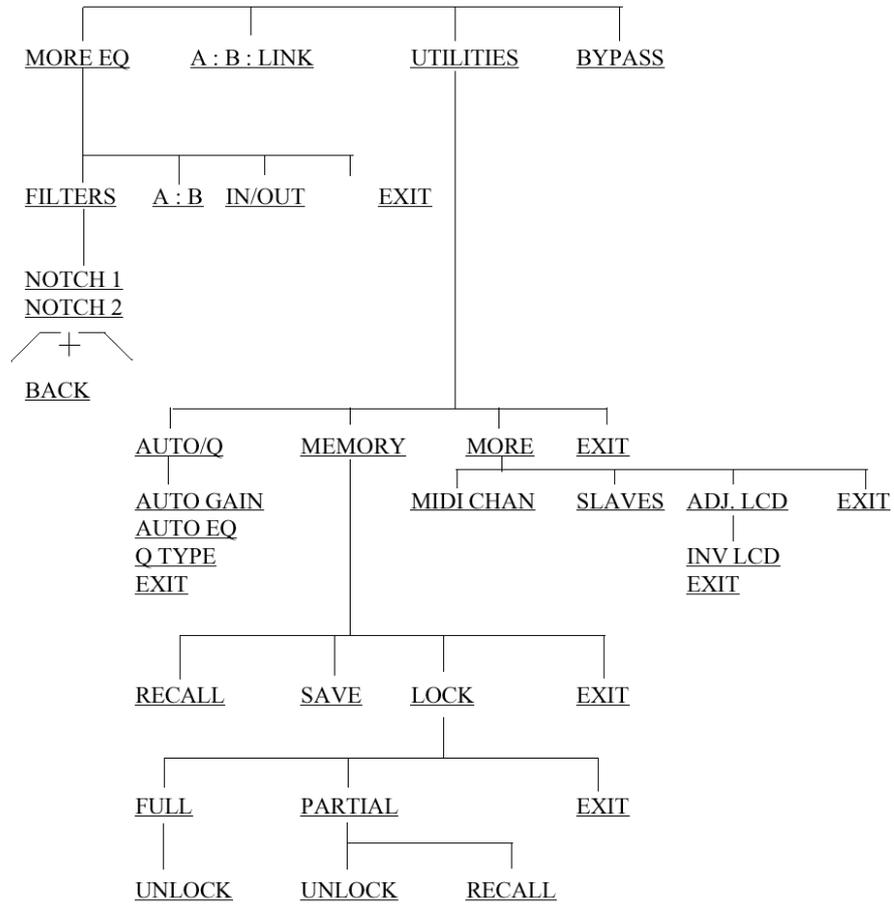
482mm (19 inch)
88mm (3.5 inch)
306mm (12.25 inch)

WEIGHT

Net
Shipping

5 kg
7 kg

DN3600C SOFTWARE V3.0C MENU STRUCTURE





Midas Consoles Japan Division ダイヤルイン : 03-6661-3801
URL:<http://www.midasconsolesjapan.com> Email:info@midasconsolesjapan.com



本 社 〒 130-0011 東京都墨田区石原 4-35-12 TEL 03-6661-3825 FAX 03-6661-3826
大阪営業所 〒 531-0072 大阪府大阪市北区豊崎 3-4-14-602 TEL 06-6359-7163 FAX 06-6359-7164
URL:<http://www.bestecaudio.com> Email:info@bestecaudio.com

仕様および外観は、改良のため予告なく変更する事があります